



《現状把握》

家庭での生活習慣はそれなりに身に付いているものの、学習習慣が身に付いていない児童が多く、予習や復習の意識が低くだけでなく、宿題にも取り組めない現状がある。

さらに、規範意識が低く、学校のきまりを守るという意識が薄い。一方で、友達との約束を守ろうとするという傾向がある。

国語に関しては、関心、知識、活用ともに低く、全ての基礎となる読解力の低さが、学力の低さに影響していると考えられる。実際、すべての教科において、課題の理解、また、考えを表現することに困難を感じている児童が多い。算数の知識においても、昨年度の3学期から、松江小独自の基礎学力を定着させるためのマスターテスト、復習プリントなどで学習してきたが、国語の知識よりは上回ったものの、まだまだ力が足りない状況があり、活用できない現状がある。

《授業改善のポイント》

算数の知識に関する項目では、全体で見ると平均を下回っているが、正答数分布で見ると、中間層の伸びを感じられる。また、算数への関心が高まっていることと併せてマスタータイムや宿題において復習に取り組んできた成果と考えられる。さらに、継続して基礎基本の定着に一層力を入れていくとともに、問題解決学習により、自力解決の経験を積むことで、知識や既習事項を活用することへの意欲も高めていく。

国語への関心の低さは、文字に対しての苦手意識が影響していると思われる。それが、言葉の意味をきちんと理解し、読みを深めることへの抵抗を高めている。読書への関心も個人差が大きい。授業の中で、楽しめる言語活動、読み取りの課題の工夫などを通して、言語への関心を高めていきたい。

そして、実効性のあるPDCAサイクルを確立し、学習の過程や成果を評価していく。

《家庭・地域への働きかけ》

「早寝・早起き・朝ご飯」のよい習慣を継続するとともに、家庭で学習する習慣が身に付けられるよう各家庭における生活時間の見直しに努めていただく。さらに、学校家庭が同じ視点で見守ることで規範意識を高めていけるよう家庭との連携を図る。

総合的な学習の時間等で、地域の方々との関わりを増やし、将来に向けての希望と現在取り組むべき姿を明確にもたせていく。

《チャートの特徴》

すべての項目で、全国平均を下回ったが、「生活習慣」「算数への関心」は、ほぼ全国平均に近くなった。しかし、残りの9項目のうち、「自尊感情」「言語活動」以外の7項目は、全国平均を大きく下回り、特に、「学習習慣」と「算数 B 活用」はさらに大きく下回っている。